

# 令和2年度 学校評価結果概要

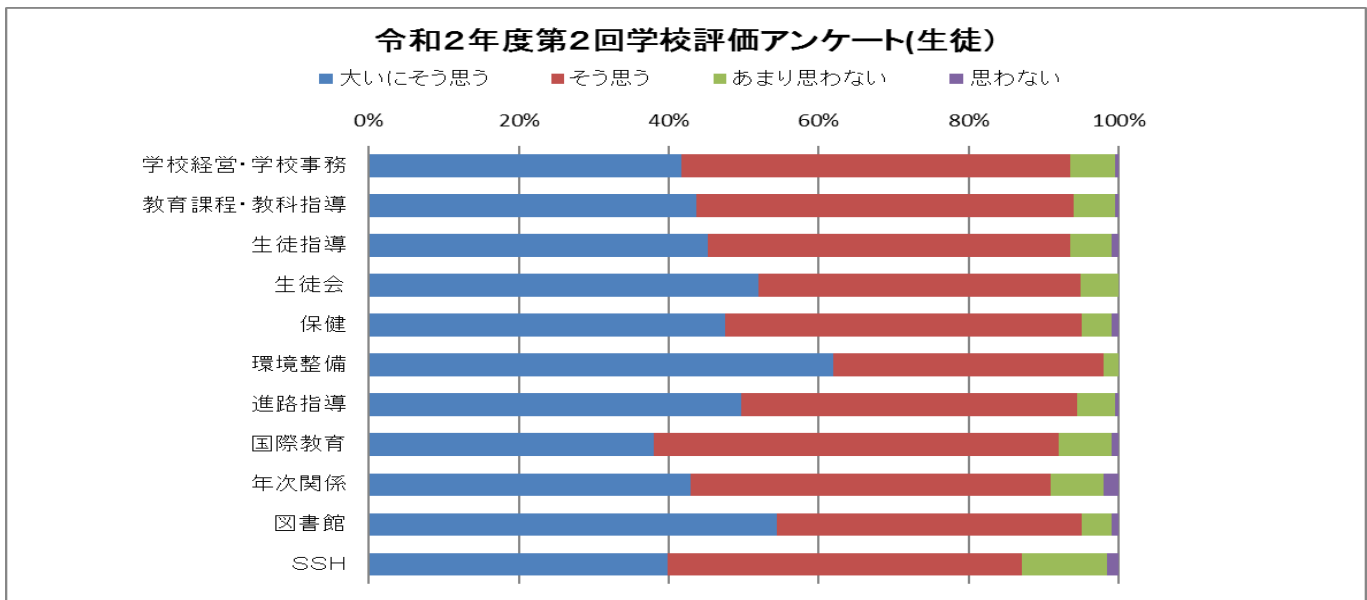
## 1 学校評価の方法

- 時期 令和2年8月(第1回)及び12月(第2回)
- 評価者 生徒、教職員及び保護者
- 方法 学校改善・点検シートにより達成度を4段階で評価する。

## 2 第2回学校評価結果(令和2年12月実施)

### (1) 生徒アンケート結果の概要について

- 対象生徒数: 677名
- 回収者数: 601名(回収率: 88.8%)
- 質問項目数: 18
- 質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は93.0% (昨年比 +3)

- 否定的な評価が高かった項目(10%以上) 今年(昨年比)
  - ・地震や火災などの災害が起こった場合の行動の仕方について 11% (-1)  
具体的に知らされている。
  - ・SSHの取り組みが学校の活性化に活かされている。 14% (-3)
  - ・【SSHクラスのみ】SSHの活動により、理数系の教科・科目への興味関心が深まった。 12% (+9)

### 【考察】

- ・今年度はコロナ禍のため、学校の様々な教育活動が思うように行えなかった。上記項目にかかわる避難・防災訓練は例年2回行っていたが、今年度は1回、また、SSH関係行事も実施できなかつたり、規模を縮小したりしながら対応せざるを得なかった。しかしながら、新たな試みとして姉妹校であるKLB校とYouTubeによる交流を導入する等、様々な工夫を凝らして教育活動を支えたことで、数値的にとどまったと考えられる。

○昨年度に比べて肯定的な評価が高かった項目（昨年比+20%）

- ・図書館がHR活動や授業、また個人で利用しやすいよう整備されている。 96%（+30）

**【考察】**

- ・今年度着任した司書の様々な工夫によるところが大きいと思われる。具体的には、図書館にぬいぐるみ等を置いたり、生徒目線の図書館だよりに加え、司書目線のものも発行（各々月2回）したりして、生徒が来館しやすく、図書を借りやすくしたことで数値が大幅に改善されたものと思われる。

○生徒自己評価において否定的な評価が高かった項目（20%以上）

- ・シラバスを活用して履修登録を行っている。 28%（-4）
- ・授業の予習や復習は、しっかりと行っている。 24%（-3）
- ・家庭学習時間は、年次+1時間程度を実行している。 41%（-6）
- ・Classiを積極的に活用している。 29%（+4）
- ・読書、学習、調査のために図書館を活用している。 48%（-5）

**【考察】**

- ・履修内容等を記したシラバスを配布し、指導しているが、科目名や先輩からの話等で履修登録している現状があるため、年次集会や担任から説明する際に配布する時機を見直して改善していきたい。
- ・学習時間については、昨年度に比べ改善傾向にあるが、本校の教育方針「文武両道」のもと、社会における有為な人材を育成するため、根気強く生徒に伝え続けていきたい。
- ・Classiは、昨年度まで各種調査への回答や連絡、進路学習の振り返りツールとして活用していたが、今年度から導入されたキャリアパスポート（紙媒体に進路学習の振り返りを記録）の影響で、2・3年生の使用頻度が減少したことが影響しているものと思われる。しかし、振り返り時間をLHRやきずなの時間で確保したことから、進路学習への意欲は高まっている（後述）。
- ・図書館の活用は、昨年度に比べ改善したものの、整備状況に比べ数値は大幅に低くなっている。これは、利用しやすく整備されたものの、実際に利用している生徒は全体の約半数弱であることから、これらの取り組みを継続し本の楽しさを生徒に発信し続けていきたい。

○昨年度に比べて生徒自己評価において評価が高かった項目（昨年比10%）

- ・進路意識を高めるために、キャリアパスポート作成等の活動に意欲的に取り組んでいる。 87%（+11）

**【考察】**

- ・今年度から様々な学校行事や体験活動を終えたのちに、生徒がそれらを振り返り、自分の成長にどう役立ったかなどをキャリアパスポートとして記録している。記録時間も授業時間内等に確保したことで、生徒が取り組みやすくなったことが要因として考えられる。

## （2）教職員アンケート結果の概要について

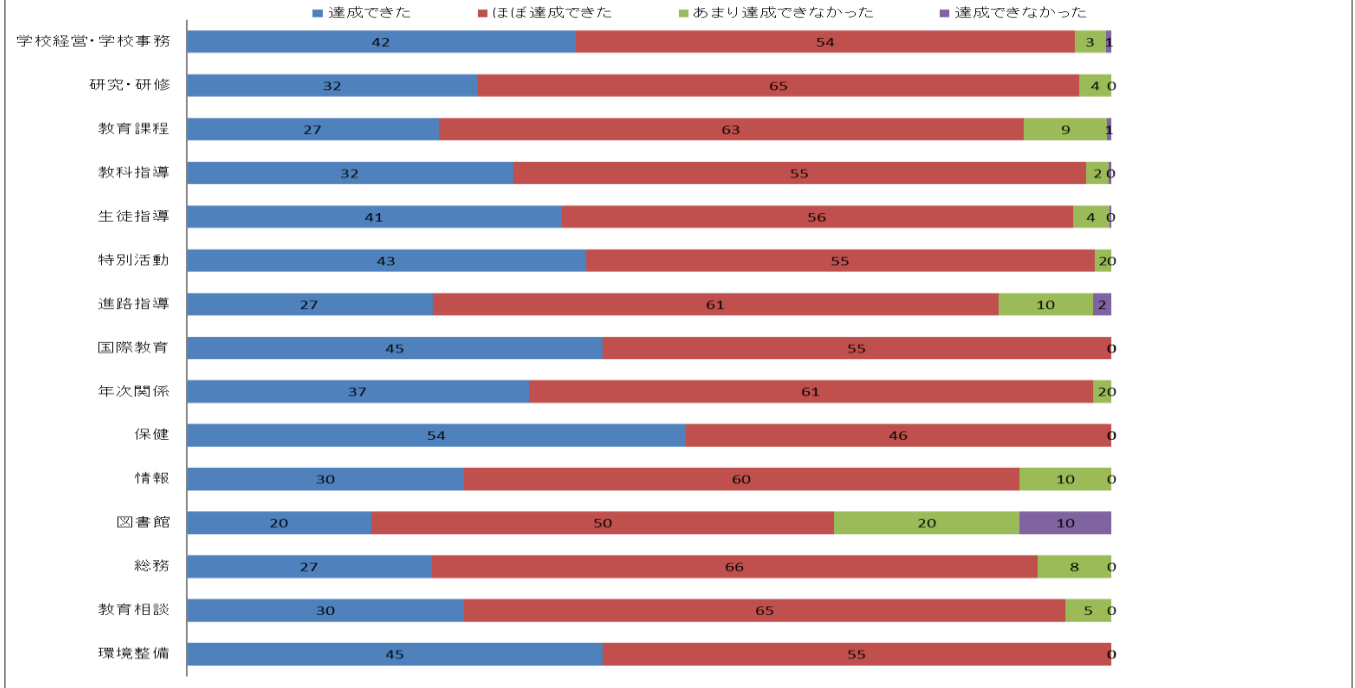
○対象教職員数：48名

○回収者数：40名（回収率83.3%）

○質問項目数：38

○質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。

### 令和2年度第2回学校評価アンケート【教職員】



※調査項目 38 項目で、肯定的な評価の平均は 94.6% (昨年比 +1.9)

#### ○否定的な評価が高かった項目 (10%以上)

- ・シラバスを履修ガイダンスの際に効果的に活用している。 22% (-3)
- ・教科指導やHR指導、また個人で図書館を活用している。 30% (-9)

#### 【考察】

- ・シラバスの活用については、昨年度とほぼ同様の状況であるが、配布時期や内容を検討していく必要がある。
- ・図書館の活用については、司書の工夫により昨年度より1割程度改善された。今後も図書館と連携していきながら、生徒の成長を支えていきたい。

#### ○昨年度に比べて評価が低かった項目 (10%以上)

- ・入学式、卒業式、全校集会など儀式的行事を通し、学校の一員としての意識を自覚させている。 88% (-12)

#### 【考察】

- ・コロナ禍のため、入学式は中止、全校集会も配信されたものを各教室で視聴するなど、例年のように行えていないことが一番の原因であろう。一日も早いコロナの終息を願ってやまない。

#### ○昨年度に比べて評価が高かった項目 (10%)

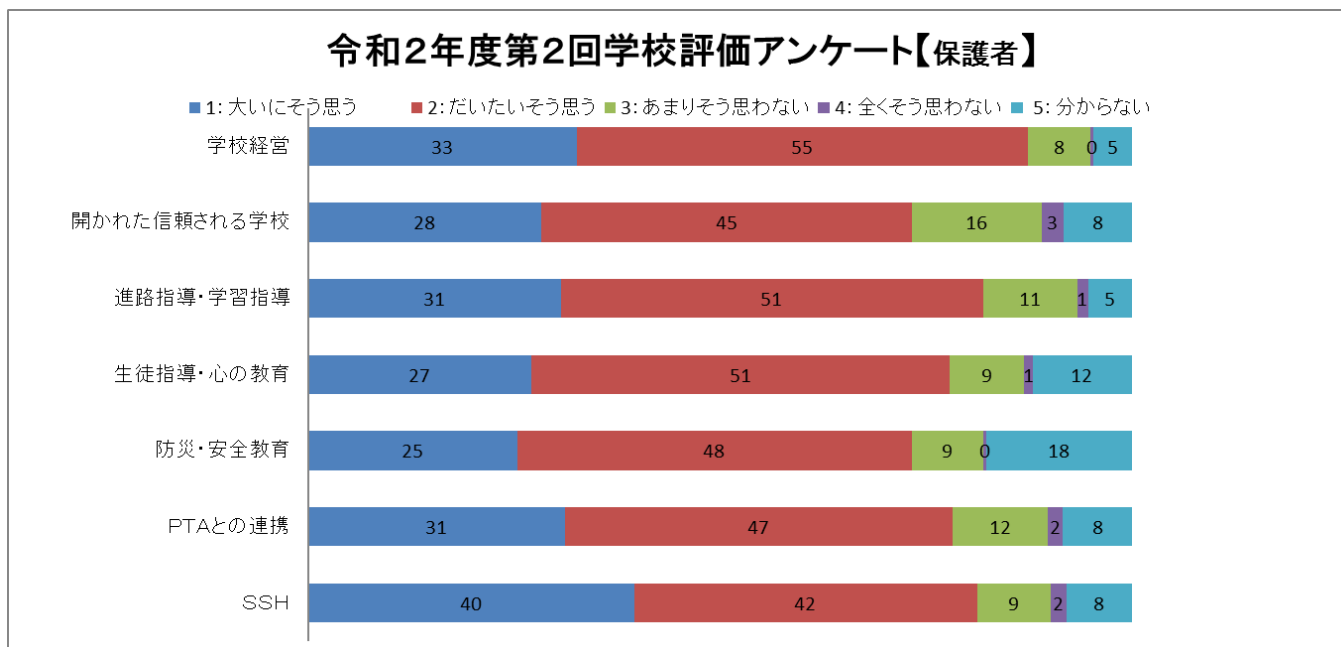
- ・学習指導要領の趣旨を活かし、創意工夫された編成となっている。 100% (+10)
- ・Classi や FINE 等の教育情報コンテンツを有効に活用している。 90% (+17)

#### 【考察】

- ・令和4年度から新学習指導要領の本格実施を控える中で、その趣旨も見据えて動き出していることが要因として考えられる。
- ・教育情報コンテンツは、コロナ禍の休業期間にオンライン授業や課題の配信等で多くの先生方が利用したことが要因と考える。

### (3) 保護者アンケート結果の概要について

- 対象保護者数：677名
- 回収者数：638名（回収率94.2%）
- 質問項目数：18
- 質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は79.6%（昨年比 +1.4）

#### ○否定的な評価が特に高かった項目（20%以上）

- ・保護者が授業参観をする機会を十分に設けていると思いますか。 35%（+17）
- ・避難防災計画に基づき訓練を実施し、生徒の防災意識を高めていると思いますか。 28%（変更）
- ・いじめアンケートに基づき、生徒から状況等を聞き取り、迅速に対応していると思いますか。 36%（変更）
- ・お子さんの担任や年次の先生方との間に信頼関係ができていますか。 21%（-3）
- ・本校のホームページやブログを定期的に閲覧していますか。 42%（変更）

#### 【考察】

- ・昨年度の保護者の結果で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」「分からない」と回答した保護者の割合が高かった「避難防災」「いじめ対応」「ホームページ等の閲覧」項目については、質問内容を変更したが、依然としてその割合が高かった。次年度は、質問内容をさらに答えやすいように変更していく必要がある。
- ・授業参観については、コロナ禍で実施できていないことが原因だと考えられる。
- ・信頼関係については、昨年度より改善されているものの、教育活動を行っていくうえで最も重要な要因であるため、教職員に働きかけていきたい。
- ・保護者に対する情報発信の在り方について、配布物やいじめアンケート結果等の連絡をClassiを通じて発信していく等、学校と家庭との連携をさらに推進していきたい。

### 3 学校評価考察

学校改善・点検シート結果は、生徒、教職員、保護者とも概ね昨年度と同様であったが、今年度はコロナ禍のために学校の教育活動が思うように行えず、その関連項目で評価が低くなった。具体的には、「アクティブ・ラーニング型授業」の実施、「SSHや英語学研修」の取り組み、「儀式的行事を通して学校の一員としての意識」の自覚、「学校行事の実施、学校行事への協力」、「授業参観の機会」の設置等の項目が、昨年度に比べて総じて下がっている。そうしたなか、今年度、特に力を注いだ「人を思いやること」や「規律と責任を重んじ」ること、「社会の有為な形成者」となること等については、生徒・保護者・教職員の評価が昨年度に比べて評価が高まっており、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。また、昨年度から教室の施錠に取り組んでいるが、盗難等の被害報告は1件もなかった。これを受け、学校の安全管理体制をさらに強化するため、今年度末に部室の施錠体制も整備した。

なお、昨年度の保護者結果で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」「分からない」と回答した保護者の割合が高かった「防災意識」「いじめ対応」「ホームページ等の閲覧」項目については、質問内容を変更したが、依然としてその割合が高かった。次年度は、質問内容をさらに答えやすいように変更していく必要がある。

コロナ禍で、学習面では教えあいや学びあいを取り入れて、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現しにくい状況もあったが、生徒が教員の工夫を肯定していることが窺える。この点は、教職員のICT機器活用の割合が2割弱伸びていることもあり、生徒・教職員一丸となって今後も学校全体で取り組んでいきたい。しかし、家庭での学習時間を肯定している生徒は6割弱であり、家庭学習時間の確保に向け、Classiを活用し、クラスごとの集計データを可視化し、担任による個別の声掛けや年次全体での情報共有にさらに努めていきたい。進路面では、今年度から導入されたキャリアパスポートの作成に意欲的に取り組んでいる生徒が9割弱おり、様々な進路情報と組み合わせながらキャリア教育の充実を図っていきたい。

次に、SSHでは、教職員・生徒・保護者ともに、評価は年々右肩上がりとなっていたが、今年はコロナ禍で実施できた取り組みが少ないため、理数系の教科・科目への興味関心が深まったかというSSHクラス対象の問いに対し、評価が1割弱下がった。次年度以降も先が見通せない中、生徒が探究活動である課題研究に取り組むことで学習意欲を向上させたり、課題を発見したり、理数系にとどまらない教科・科目への興味関心を深めたりしながら、生徒の能力を高めていきたい。また、次年度はSSH2期目の最終年であり、3期目の継続申請を行う年でもあるため、是が非でも3期目の申請を勝ち取れるように取り組んでいきたい。

また、保護者は、本校の教育活動に理解を示してくれており、学校行事や生徒指導において協力的であることは本校の強みとなっている。保護者の信頼関係をさらに得るためにも、健全な生徒の育成に尽力し、安全・安心な学校づくりを推進していきたい。今年度は休校期間に学校からの通知や案内などの配布物をホームページ上に掲載したことで、保護者の手元に配布物が届いた割合が8割を超えたことから継続して取り組みつつ、保護者に配布物や通知、いじめアンケート結果等をホームページに掲載したことをClassiから連絡していきたい。

教職員においては、日々の学習指導や部活動指導に加え、不登校や多様な生徒への対応などもあり、本校は先生方の負担がとくに増えているなか、様々な状況に対し、生徒・保護者と常に前向きに向き合ってくれていることが窺える。しかし、勤務が長時間となる教職員もおり、先生方のメンタルヘルスについて注意していく必要がある。そのため、年休を取得しやすい環境づくりや生徒と向き合う時間の確保等を通し、働き方改革に粘り強く取り組んでいきたい。

最後に、「文武両道」を基軸とする本校の教育目標・指導重点は、保護者や地域の方々にも広く認識され、教職員はその支援のもと、教科指導、生徒指導、進路指導及び部活動指導に熱心に取り組んでいる。この強みを生かして、生徒に高い目標を持たせ、それを実現させるために、質の高い教育活動を展開していく必要がある。また、県内の中学校卒業生数（見込み）が減少し続けるなか、中学生にとって魅力ある学校でなくてはならない。そのためにも、特色を生かした教育活動を継続しつつ、様々な状況の変化に対応していくことで、保護者や地域の方々と信頼関係を揺るぎないものとしていくことが必要であると考えます。

## 4 課題と改善に向けて

### (1) 課題

#### ① 生徒

- ・主体的かつ計画的な学習への取り組みについて（家庭学習時間の確保）
- ・キャリアパスポートによる振り返りを充実させたキャリア教育の推進について

#### ② 教職員

- ・勤務の長時間化に伴う教職員のメンタルヘルスについて
- ・生徒の学習への動機付けについて

#### ③ 保護者

- ・防災意識高揚につながる情報発信の在り方について
- ・ホームページ等を通じた家庭への情報発信の在り方について

### (2) 改善に向けて

#### ① 新学習指導要領が求める資質・能力の育成

- ・知識及び技能の習得
- ・思考力、判断力、表現力等の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養

#### ② 授業改善、授業力向上、ICT活用

- ・ICT機器を活用した授業づくり
- ・何ができるようになったのかといった振り返り

#### ③ 家庭学習時間の確保に向けた取組

- ・学習と部活動とのバランス及び下校時刻の徹底
- ・課題に対する意識付けと各教科での課題量の調整
- ・Classi への家庭学習時間記録の徹底

#### ④ 進路指導

- ・SSHと連動した進路意識づくり
- ・模試データ等の教科、年次、部顧問による情報共有と各担当からの声掛け
- ・キャリアパスポートを通じたキャリア教育の展開

#### ⑤ 信頼される学校

- ・安心、安全な学校づくり（危機管理）の徹底
- ・Classi を通じた学校と家庭との連携（配布物やいじめアンケート結果等の連絡）

#### ⑥ その他

- ・生徒数減少に応じた部活動体制の構築
- ・広報活動の充実による受検生の確保
- ・SSH関連行事の充実とSSH3期目の申請及び認可